

平成27年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年12月26日

上場取引所 東

上場会社名 日本プロセス株式会社

コード番号 9651 URL <http://www.ipd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 上石 芳昭

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務統括

(氏名) 久保 裕

TEL 03-5408-3351

四半期報告書提出予定日 平成27年1月9日

配当支払開始予定日

平成27年2月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年5月期第2四半期の連結業績(平成26年6月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年5月期第2四半期	2,733	13.8	247	135.2	263	113.0	159	148.8
26年5月期第2四半期	2,402	0.5	105	10.4	123	7.5	64	13.9

(注)包括利益 27年5月期第2四半期 185百万円 (161.7%) 26年5月期第2四半期 70百万円 (19.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年5月期第2四半期	30.88	—
26年5月期第2四半期	11.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年5月期第2四半期	8,702		7,737		88.9	
26年5月期	9,161		8,214		89.7	

(参考)自己資本 27年5月期第2四半期 7,737百万円 26年5月期 8,214百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年5月期	—	15.00	—	15.00	30.00
27年5月期	—	15.00	—	—	—
27年5月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年5月期の連結業績予想(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,350	1.4	385	2.6	430	1.0	266	10.3	52.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年5月期2Q	5,745,184 株	26年5月期	5,745,184 株
② 期末自己株式数	27年5月期2Q	822,634 株	26年5月期	200,134 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年5月期2Q	5,170,870 株	26年5月期2Q	5,545,092 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
4. 補足情報	10
(1) 生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費などに弱さが見られるものの、各種政策の効果もあり大企業を中心に企業収益が改善しており、緩やかな回復基調が続いています。

情報サービス産業におきましては、ソフトウェア投資は緩やかに増加しており、受注環境においても案件が増加し回復傾向が継続している一方で、人材のリソース確保は困難になってきております。

こうした環境の中、当社は、3カ年の中期経営計画（平成24年6月～平成27年5月）の最終年度として成果にこだわりながら、得意としている社会インフラ分野の中から新たな注力分野、新規顧客を発掘することや、前期より継続してソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることで顧客に最大のメリットを提供すること、などに注力してまいりました。

また、当社は、社会インフラ分野を成長ドライバーとして位置付けており、共同提案や共同開発などを通じて事業の効率化と収益力の向上を図るため、同分野に強いアドソル日進株式会社（東京都港区）と業務資本提携契約を締結し、競争優位性のあるビジネスの実現に向けて検討を開始しました。

経営成績につきましては、例年通り第2四半期連結累計期間の検収は少ない傾向と見込んでいたものの、一部で当初計画より検収が前倒しとなったことや受注が概ね順調だったことなどで、売上は前年を上回りました。さらに、新入社員の現場へのアサインが早期にできたこと、全社的に技術者の稼働率が向上したことや瑕疵対応が減少したことなどで、利益は前年を大きく上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は2,733百万円（前年同期比13.8%増）、営業利益は247百万円（前年同期比135.2%増）、経常利益は263百万円（前年同期比113.0%増）、四半期純利益は159百万円（前年同期比148.8%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(制御システム)

制御システムでは、火力発電所向け監視・制御システムは、国内の電力業界全体として受注単価が下落傾向にあるものの、更新案件や新規案件などが堅調に推移しました。

自動車の制御システムは、次世代自動車向け電動化システムの開発などが堅調に推移しました。また、前期に新たな顧客から受託したエンジン制御のソフトウェア開発案件は横ばいで推移しました。

さらに、制御システム全体で、作業量が増加し技術者の稼働率が向上したことや新入社員の現場へのアサインが早期にできたことなどで、利益は前年を大きく上回りました。

この結果、売上高は470百万円（前年同期比14.9%増）、セグメント利益は116百万円（前年同期比53.7%増）となりました。

(交通システム)

交通システムでは、新幹線の運行管理システムは、延伸についてのシステム開発が収束し、全体としても開発サイクルが一巡しているため横ばいで推移しました。その一方で、在来線の運行管理システムはリプレース案件が堅調に推移したため、全体としては、売上高は前年を上回りました。また、利益では、一部瑕疵対応があったものの前年より改善しました。

この結果、売上高は210百万円（前年同期比25.5%増）、セグメント利益は15百万円（前年同期26百万円の損失）となりました。

(特定情報システム)

特定情報システムでは、地理情報案件は、前期末より製造フェーズが継続するなど堅調に推移しましたが、一部で瑕疵対応が発生しました。また、危機管理関連も複数の案件が輻輳し作業量が増加したことなどで技術者の稼働率が向上し、好調に推移しました。

この結果、売上高は331百万円（前年同期比33.4%増）、セグメント利益は72百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

(組込システム)

組込システムでは、スマートフォンのプラットフォーム開発は、機種数の減少により作業量が減少したため体制を縮小しましたが、車載情報システムとストレージデバイスの組込システム開発が堅調に推移しました。また、前期に電子部品・半導体関連企業から新規に受託した開発案件は横ばいで推移しました。

この結果、売上高は619百万円（前年同期比15.0%増）、セグメント利益は144百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

(産業・公共システム)

産業・公共システムでは、公共向けにおいては、次世代駅務機器開発やICカード開発が堅調に推移し、前期に受託した官公庁向け気象案件は横ばいで推移しました。また、鉄道子会社向けのエンジニアリングサービスは堅調に推移しました。

産業向けにおいては、スポーツ関連システムの開発量が増加しました。

この結果、売上高は657百万円（前年同期比12.7%増）、セグメント利益は161百万円（前年同期比16.8%増）となりました。

(ITサービス)

ITサービスでは、検証業務は、顧客の商品開発の減少やオフショア化により減少傾向にあるものの横ばいで推移しました。構築業務は、一部顧客での業績の影響により体制が縮小しましたが、その他は横ばいで推移しました。保守・運用業務は、会計システムや企業内情報システムが堅調に推移しました。

この結果、売上高は443百万円（前年同期比2.5%減）、セグメント利益は84百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて459百万円減少して、8,702百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得に伴い現金及び預金が減少したことによります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて17百万円増加して、965百万円となりました。この主な要因は、未払法人税等が増加したことによります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて476百万円減少して、7,737百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得に伴い株主資本が減少したことによります。

この結果、自己資本比率は、88.9%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて95百万円減少して、806百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、48百万円（前年同期は148百万円の獲得）となりました。主な要因は、売上債権の増加等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した資金は、614百万円（前年同期は423百万円の使用）となりました。主な要因は、有価証券の償還及び定期預金の払戻によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、662百万円（前年同期は78百万円の使用）となりました。主な要因は、自己株式の取得によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成26年7月7日公表の平成27年5月期の連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,002,778	2,206,866
受取手形及び売掛金	1,482,005	1,318,088
電子記録債権	344,845	646,342
有価証券	1,202,316	601,063
仕掛品	121,791	189,729
繰延税金資産	198,685	160,627
その他	40,380	95,131
流動資産合計	6,392,804	5,217,850
固定資産		
有形固定資産	229,824	224,133
無形固定資産	17,698	17,318
投資その他の資産		
投資有価証券	2,169,203	2,981,612
その他	352,111	261,596
投資その他の資産合計	2,521,315	3,243,209
固定資産合計	2,768,838	3,484,661
資産合計	9,161,643	8,702,512
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,424	65,592
未払法人税等	52,640	71,151
賞与引当金	453,043	367,381
その他の引当金	26,049	29,435
その他	286,803	343,648
流動負債合計	877,962	877,208
固定負債		
引当金	63,447	67,694
その他	6,038	20,296
固定負債合計	69,486	87,991
負債合計	947,448	965,200
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,325,847	2,325,847
利益剰余金	4,565,538	4,642,055
自己株式	△175,287	△754,212
株主資本合計	8,203,508	7,701,100
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,686	36,211
その他の包括利益累計額合計	10,686	36,211
純資産合計	8,214,195	7,737,312
負債純資産合計	9,161,643	8,702,512

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
売上高	2,402,470	2,733,232
売上原価	1,954,578	2,161,012
売上総利益	447,892	572,219
販売費及び一般管理費	342,764	324,918
営業利益	105,127	247,301
営業外収益		
受取利息	13,897	12,090
保険解約返戻金	3,403	2,081
その他	2,337	2,478
営業外収益合計	19,638	16,650
営業外費用		
その他	1,158	681
営業外費用合計	1,158	681
経常利益	123,607	263,269
特別損失		
固定資産除却損	2,479	48
特別損失合計	2,479	48
税金等調整前四半期純利益	121,127	263,221
法人税、住民税及び事業税	5,731	65,425
法人税等調整額	51,210	38,102
法人税等合計	56,941	103,527
少数株主損益調整前四半期純利益	64,185	159,693
四半期純利益	64,185	159,693

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	64,185	159,693
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,582	25,524
その他の包括利益合計	6,582	25,524
四半期包括利益	70,768	185,218
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,768	185,218
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	121,127	263,221
減価償却費及びその他の償却費	16,746	10,565
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	2,479	48
受取利息及び受取配当金	△13,915	△12,338
引当金の増減額(△は減少)	△82,472	△78,029
売上債権の増減額(△は増加)	437,490	△137,580
たな卸資産の増減額(△は増加)	△139,429	△67,937
仕入債務の増減額(△は減少)	10,340	6,167
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△10,408	△8,194
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△39,849	△58,426
その他の流動負債の増減額(△は減少)	18,819	56,956
その他	△5,652	△3,577
小計	315,277	△29,125
利息及び配当金の受取額	24,202	22,604
補助金の受取額	19,769	—
その他の収入	7,162	5,504
法人税等の支払額	△217,494	△47,108
営業活動によるキャッシュ・フロー	148,917	△48,125
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△700,000	—
定期預金の払戻による収入	1,400,000	800,000
長期性預金の預入れによる支出	△1,000,000	—
有価証券の取得による支出	△301,649	—
有価証券の売却及び償還による収入	900,000	800,000
有形固定資産の取得による支出	△16,009	△1,438
無形固定資産の取得による支出	△475	△3,050
投資有価証券の取得による支出	△703,783	△980,496
資産除去債務の履行による支出	△1,476	—
その他	△220	△297
投資活動によるキャッシュ・フロー	△423,612	614,718
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△579,503
配当金の支払額	△78,851	△83,001
財務活動によるキャッシュ・フロー	△78,851	△662,505
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△353,545	△95,912
現金及び現金同等物の期首残高	1,146,936	902,778
現金及び現金同等物の四半期末残高	793,390	806,866

- (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年8月7日開催の取締役会決議に基づき、自己株式622,500株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が578,925千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が754,212千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第2四半期連結累計期間(自平成25年6月1日至平成25年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	交通システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	409,531	168,058	248,301	538,387	583,501	454,690	2,402,470
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	409,531	168,058	248,301	538,387	583,501	454,690	2,402,470
セグメント利益又は損失(△)	75,651	△26,384	58,523	135,636	138,310	83,617	465,354

(単位：千円)

	調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
売上高		
外部顧客への売上高	—	2,402,470
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	2,402,470
セグメント利益又は損失(△)	△360,227	105,127

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△360,227千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△342,764千円及びその他△17,462千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ. 当第2四半期連結累計期間(自平成26年6月1日至平成26年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	交通システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	470,734	210,961	331,218	619,027	657,775	443,514	2,733,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	470,734	210,961	331,218	619,027	657,775	443,514	2,733,232
セグメント利益	116,275	15,192	72,152	144,440	161,603	84,176	593,840

(単位：千円)

	調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
売上高		
外部顧客への売上高	—	2,733,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	2,733,232
セグメント利益	△346,538	247,301

(注) 1. セグメント利益の調整額△346,538千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△324,918千円及びその他△21,620千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
制御システム	354,459	+6.2
交通システム	195,769	+0.7
特定情報システム	259,065	+36.5
組込システム	474,587	+17.8
産業・公共システム	496,171	+11.5
ITサービス	359,338	△3.2
合計	2,139,392	+10.4

- (注) 1. 金額は製造原価によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
制御システム	514,973	+41.7	163,969	+54.3
交通システム	294,713	△8.1	175,536	△9.4
特定情報システム	436,452	+44.5	192,223	+20.5
組込システム	702,233	+35.1	237,620	+114.5
産業・公共システム	692,711	△0.7	254,761	△19.1
ITサービス	452,708	+4.4	89,775	△11.0
合計	3,093,792	+17.3	1,113,885	+13.0

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
制御システム	470,734	+14.9
交通システム	210,961	+25.5
特定情報システム	331,218	+33.4
組込システム	619,027	+15.0
産業・公共システム	657,775	+12.7
ITサービス	443,514	△2.5
合計	2,733,232	+13.8

- (注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社日立製作所	533,132	22.2	690,748	25.3
株式会社東芝	341,180	14.2	352,673	12.9
日立オートモティブシステムズ株式会社	277,788	11.6	293,030	10.7

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。